

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2020/11/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは11月30日(月) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		11月27日現在 (矢印は10月末比)	12月の予想
USD	ドル・円 (円)	↘ 104.09	↗ 102.50 ~ 106.00
	景気回復にスポットが当たることで底固めする展開を見込む		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.196	⇒ 1.14 ~ 1.21
	ユーロ・円 (円)	↗ 124.48	⇒ 122.00 ~ 125.50
	欧州各国でロックダウン解除の動きが続き、ユーロは底堅く推移		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.331	↘ 1.25 ~ 1.36
	ポンド・円 (円)	↗ 138.54	↘ 133.00 ~ 142.00
	EU離脱協議の行方次第ではボラティリティが高まる可能性には注意		
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 76.89	↗ 73.00 ~ 80.00
	NZドル・円 (円)	↗ 73.15	↗ 70.00 ~ 75.00
	リスク選好継続の流れから底堅いが、当局の通貨高けん制に注意		
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 26,645	⇒ 24,500 ~ 28,000
	国内外でのコロナ感染の拡大や急ピッチな上昇の調整から上値重い		
	NYダウ (ドル)	↘ 29,910	⇒ 28,000 ~ 32,000
長期 金利	底堅い推移を見込むが、感染再拡大が冷や水を浴びせる可能性を注視		
	日本 (%)	↘ 0.031	⇒ 0.00 ~ 0.06
	追加経済対策による増発意識も、感染再拡大は金利上昇抑える		
	米国 (%)	↘ 0.837	↗ 0.80 ~ 1.00
	12月FOMCでは国債買入の増額や年限の延長は実施しないと予想		

◆ 今月の注目ポイント

コロナによる経済制限とワクチン開発の進展

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	◎	【新型コロナ感染再拡大と経済制限】 欧州各国は依然として感染者が高水準にあり、ドイツで12/20まで部分的ロックダウンが延長。規制が長期化するほど経済ダメージは膨らむ。日米の規制や要請による影響は現状では限定的であるが、今後の状況は注意してみる必要。
		【ワクチン開発の進展】 一方で、ワクチン開発の進展は経済回復に強く作用する。各社一定の有効性が示される中で、ファイザーは米当局に対し緊急使用許可を申請。12月中の接種開始に期待が集まる。
金融 政策	○	【FRB・ECBの政策スタンス】 ECBは前回会合で追加緩和を示唆しており、10日のECB理事会ではPEPP（パンデミック緊急購入プログラム）の増額、TLTRO（長期資金供給オペ）の調整等見込まれる。また15-16日のFOMCではFRBの資産買入のスタンスが焦点。
政治	○	【英EUの交渉の行方は】 英EU間の通商交渉は依然として続く中で、EU離脱の移行期間は12月末に迫る。

◆ 新興国通貨見通し

人民元・円	↗ 15.6 ~ 16.4	レアル・円	↘ 18.0 ~ 20.5
バーツ・円	⇒ 3.38 ~ 3.52	メキシコペソ・円	↗ 4.80 ~ 5.50
ルピア・円	↘ 0.70 ~ 0.75	ルーブル・円	↘ 1.33 ~ 1.42
ルピー・円	↗ 1.40 ~ 1.43		

◆ 今月の重要日程

1日(火) 米	11月ISM製造業	15日(火) 中	11月生産・小売・投資
4日(金) 米	11月雇用統計	16日(水) 米	11月小売売上高
10日(木) 欧	ECB理事会(結果発表)	16日(水) 米	FOMC(結果発表)
10日(木) 米	11月CPI	17日(木) 英	BOE金融政策委員会
14日(月) 日	12月調査日銀短観	18日(金) 日	日銀金融政策決定会合
14日(月) 米	大統領選挙・選挙人投票	28日(月) 日	11月鉱工業生産

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

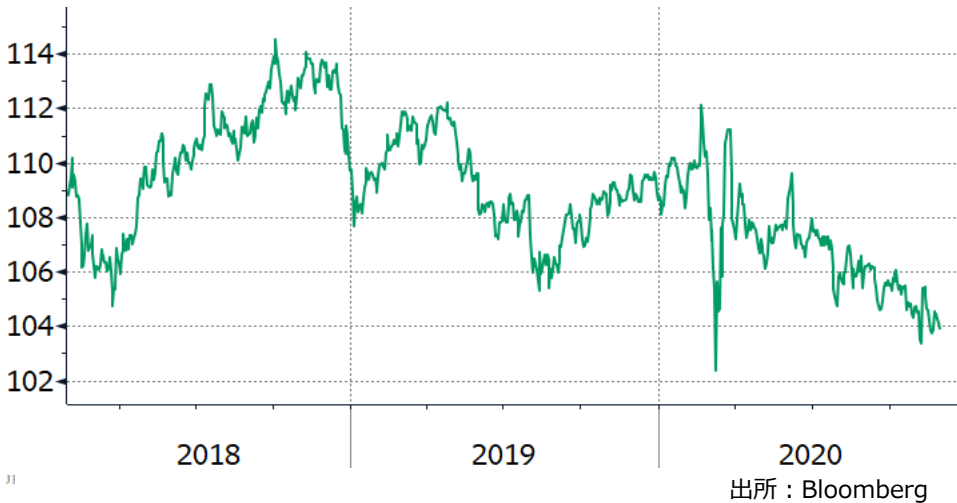
ドル 円

米ドル・円



ドル・円は上昇

102.50 - 106.00円



ドル円相場は景気回復にスポットが当たると底固めをする展開に

リスク選好相場でクロス円では円安が進むものの、安全資産とされるドル・円の動きは連動しやすく、足元のドル円相場は方向感が出づらくなっている。その中でドル安基調が続き、ドル円はじりじりとレンジを切り下げてきた。

目下、最大のドル安要因はコロナ対策等による米国の財政赤字増大とみている。経常赤字が恒常化する米国での財政赤字拡大は、所謂「双子の赤字」による資金流出懸念でドル安が進行しやすい。

金融政策面では、12月のFOMCでは資産買入のフォワードガイダンスの強化を行うとみられる。買入資産の年限調整を行う可能性も残るが為替への影響は軽微とみる。

一方で、コロナ鎮静化やワクチン開発の進展から景気回復の流れが鮮明となれば、財政赤字の中でも、むしろ財政拡張による経済回復にスポットがあたり、米経済の優位性からドル買い戻しの流れが強まるとみる。ドル円は先行きの上昇を予想しており、年末にかけては底固めをする段階とみている。

ユーロ

ユーロドル



ユーロドルは横ばい

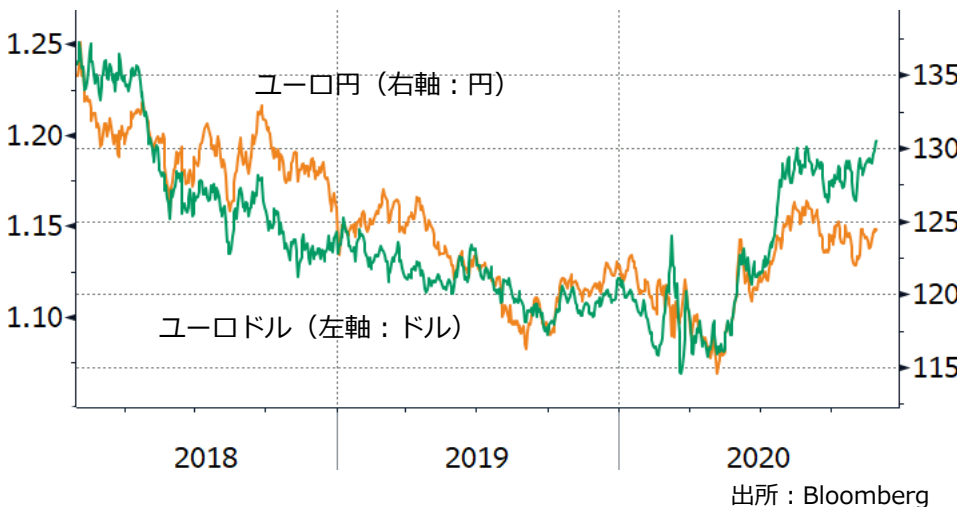
1.14 - 1.21ドル

ユーロ円



ユーロ円は横ばい

122.00 - 125.50円



ユーロドル、ユーロ円はともに横ばいを予想

11月はユーロドル、ユーロ円ともにレンジの範囲内で上昇。米国の大統領選通過による安心感やワクチン開発の進展などを受けて、リスク回避通貨であるドルや円が売られたことが要因とみる。

12月のユーロは高値圏での推移を予想。欧州各国は11月前半ごろからロックダウンを再導入していたが、コロナ感染第二波のピークアウトも一部では見られ今後ロックダウン解除の動きが続くと予想する。ワクチン開発の進展への期待も根強く、景気面ではポジティブ。12月10日にECBが開催されるが、PEPPの拡大や延長はすでに織り込まれており、緩和策を講じたとしても為替への影響は軽微とみる。また、マイナス金利深堀については金融機関への影響が大きいことから見送りとなると予想

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

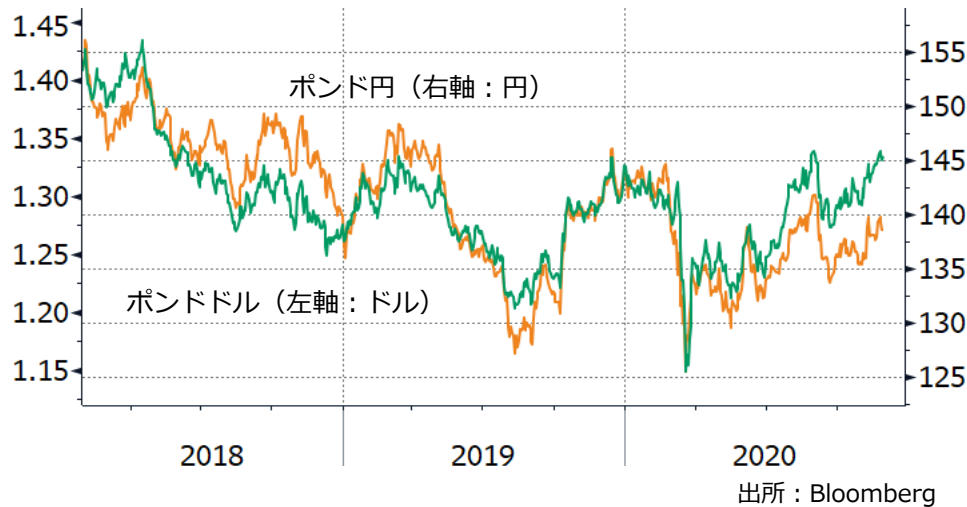
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル

ポンドドルは下落

1.25- 1.36ドル

ポンド円

ポンド円は下落

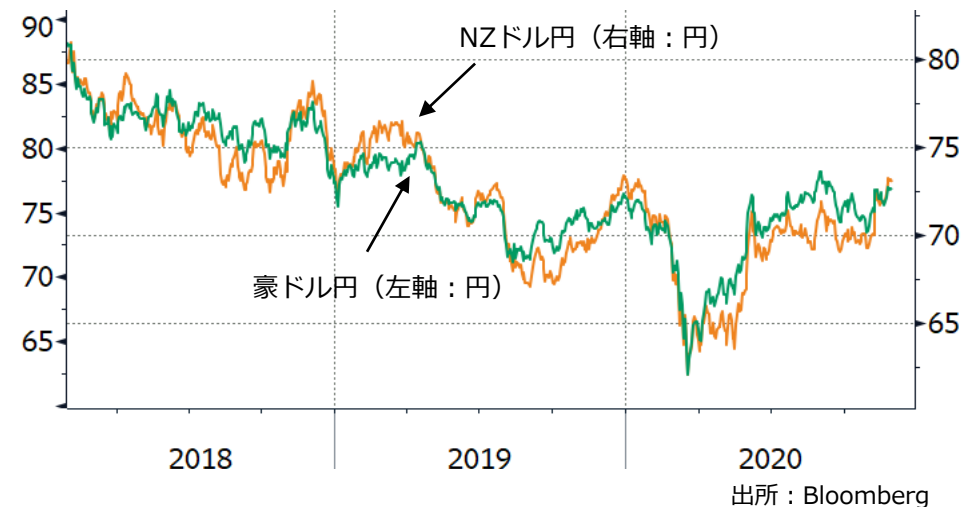
133.00 - 142.00円

ポンドドル、ポンド円はともに下落を予想

11月のポンドは、米国の大統領選通過による安心感やワクチン開発の進展などをを受けて、リスク回避通貨であるドルや円が売られたことでポンドは上昇。足元では8月末以来の高値水準にある。

12月のポンドは下落を予想。英国のEU離脱については引き続き交渉が進められているが、包括的な合意には至らず、部分的な合意に留まると予想する。離脱については実務面の期限が近く、注目されることからポンドはやや粗い動きをする可能性がある。合意締結後は一時的に上昇する可能性が高いが、新たな貿易協定への移行における混乱や合意対象外品目の関税の引上げなどが意識されポンドには下落圧力がかかるであろう。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

豪ドル円は上昇

73.00 - 80.00円

NZドル円

NZドル円は上昇

70.00 - 75.00円

豪ドル円、NZドル円は上昇を予想

11月の豪ドルは3日のRBA理事会で利下げと量的緩和策が発表されたものの、市場反応は限定的。その後米大統領選でバイデン候補の優勢やワクチンへのポジティブな報道を受け資源価格や人民元が上昇したことなどから底堅く推移した。NZドルはリスク選好の動きに加え、マイナス金利期待や追加緩和期待が後退したことで大幅な上昇となった。

12月のオセアニア通貨は引き続きリスク選好の動きから底堅い展開を予想。1日のRBA理事会は政策の据え置きが予想されている。またNZ中銀は先月住宅バブルへの懸念から住宅ローン規制を再開する意向を示しており、マイナス金利導入の思惑は一段と後退していることも両通貨のサポートとなろう。一方、当局による通貨高へのけん制発言や、先鋭化する豪中対立、北半球で再拡大しつつあるコロナ感染動向には引き続き注意が必要と見る。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

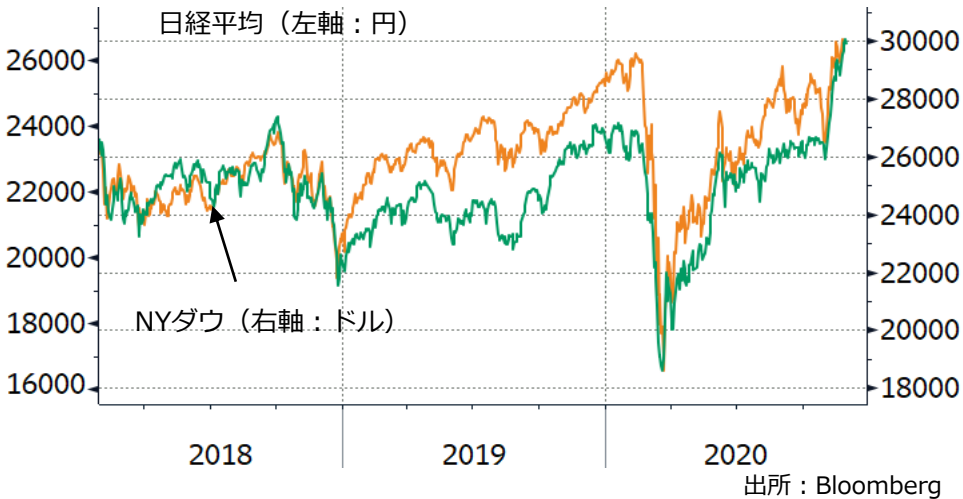
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

⇒ 日経平均は横ばい

24,500 – 28,000円

日本株は横ばいを予想

引き続きリスク選好の流れから株価は底堅い推移を予想する。一方、北半球でコロナ感染が再拡大しており、国内でもGoToトラベルの見直しや、緊急事態宣言等の行動制限が発令される可能性もあり、注意が必要と見る。また、足元急ピッチな上昇となっていることから、短期的な調整には注意が必要。

NYダウ

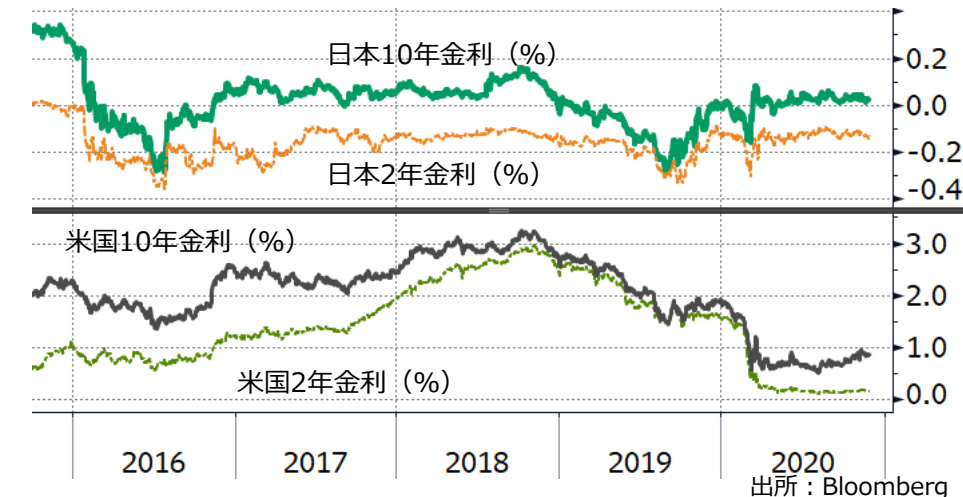
⇒ ダウは横ばい

28,000 – 32,000ドル

米国株は横ばいを予想

市場はバイデン大統領、議会ねじれを織り込み、過度な左傾化を免れるとの見方から、リスク選好の流れが続いている。また、ワクチンへのポジティブな報道も正常化期待から上昇を後押ししており、引き続き高値圏での推移を予想。14日には大統領選の選挙人投票が行われる予定であり、政権移行がスムーズに行われるかも注目される。一方、足元欧米でのコロナ感染が再拡大しており、投資家のセンチメントを冷やす可能性に注意。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

⇒ 金利は横ばい

0.00 – 0.06%

日本国債は金利横ばいを予想。

年明けに編成が予定される第3次補正予算については報道ベースで20兆円超になると伝わる。予備費の残存分を考慮しても10兆円を超える追加国債発行が必要となるが、長期債や超長期債での増発は限定的となる見込み。10年金利の変動は小幅に留まりやすく、また足元で続く感染再拡大の動きは金利上昇を抑える要因。引き続き0.0%台でのレンジ推移と予想する。

米国債10年

⇒ 金利は上昇

0.80 – 1.00%

米国債は金利上昇を予想。

12月15 – 16日に開催されるFOMCに注目。市場では国債の買入増額や買入年限の長期化が一部では予想されているが、足元コロナ感染は拡大しているものの経済指標はおおむね堅調に推移しており12月開催で国債買い入れについては変更されないと予想する。ワクチン開発への期待などもあり金利は上昇傾向を維持するとみる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



リソな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		11/27		12月の予想	11月のレビュー	12月の見通し
中国	人民元/円	15.81	➡	15.6~16.4	11月の人民元相場は対ドル・対円ともに上昇。大統領選後のドル安基調でドル人民元は6.6を割り込む水準に下落すると、月後半にかけても6.6近辺でのみ合いの動きが続いた。対円でもリスク選好相場の円安を受けて人民元高が進行し1元16円台に迫る場面もみられた。	11月に発表された10月の経済指標でも総じて中国経済の順調な回復基調が窺える。政府は10月の5中全会で内需を中心とした双循環の考えを強調。国内市場重視の姿勢は人民元の下支え要因と想起させる。一方で、11月に大型の債券デフォルトが発生、デフォルトが連鎖し金融市場の混乱が意識された場合はリスク回避で人民元高が調整する可能性に注意が必要だろう。
	ドル/人民元	6.58	➡	6.40~6.70		
タイ	バーツ/円	3.44	➡	3.38~3.52	11月初旬、米国の大統領選を通過しリスク選好ムードが強まるとドル安円安が進行。対円、対ドルともにバーツ高が進行し、ドルバーツは1ドル30バーツ台前半にレンジを切り下げた。この流れを受けてタイ中銀は20日、バーツ高抑制策を発表。ドルバーツが更なる下落は避けられたが、バーツ高進行に効果は限定的との見方もあり、大きく反転するには至らず。	ドルバーツは上昇、バーツ円は横ばいを予想。ドル安地合いから安定した経常黒字を有するタイバーツへの買い需要は根強い。タイ中銀のバーツ安牽制もあり、目先はドルバーツの上値は重く、バーツ高進行時は昨年末につけた1ドル29.96バーツが一旦の目安となる。一方、月末にかけてドル安地合いは反転、ドルバーツもレンジを切り上げると予想する。
	ドル/バーツ	30.29	➡	29.9~31.0		
インドネシア	ルピア/円	0.739	➡	0.70~0.75	11月のインドネシアルピアは、月初米大統領選後に大幅なドル安となったことを受け上昇。その後ドルが反発し小幅に下落も、RCEP締結などが好感され反発。19日の金融政策決定会合では、一部据え置きが見込まれる中利下げが行われ上げ幅を縮小。その後はもみ合い推移となった。対円ではリスク選好の動きから9日に大幅上昇後、月末にかけ上げ幅を縮小。	ルピアの安定化から利下げを見送ってきたインドネシア中銀だが、足元底堅いルピアを背景に11月利下げを実施。更なる利下げへの思惑から下値を探る動きとなりやすい。またコロナ感染は収まる気配がなく、首都ジャカルタで大規模な社会的制限が延長された事もルピアの上値を抑えよう。一方7-9月期の経常収支は輸入の落ち込みを主因に9年ぶりの黒字となっており、急落は回避されよう。
	ドル/ルピア	14,090	➡	13,500~15,000		
インド	ルピー/円	1.41	➡	1.40~1.43	11月のインドルピーは月初米大統領選後に大きく下落したものの、その後バイデン氏の優勢やワクチンへのポジティブな報道が伝わるとリスク選好から上昇。その後下落する局面もあったが、月末にかけ株高とともに上昇。インド中銀は引き続き積極的に為替への介入を行っているものとみられる。対円では9日に大きく上昇後月末にかけ上げ幅を縮小し、月間では横ばい。	インフレの高止まりからインド中銀は利下げに踏み込みづらい状況が続いており、4日の金融政策決定会合でも利下げは見送られるとみる。引き続きインド株式市場を中心に海外投資家からの旺盛な資金流入がみられており、ルピーの底堅い動きは継続しやすいとみる。一方、インド中銀はルピー高回避のため積極的なインドルピー売りドル買い介入を行っており、上昇ピッチは緩やかであろう。
	ドル/ルピー	74.04	➡	73.0~75.0		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨（中南米・ロシア）

		11/27		12月の予想	11月のレビュー	12月の見通し
ブラジル	レアル/円	19.48	↘	18.0～20.5	11月のブラジルレアルは、対ドル、対円ともに小幅ながら上昇。世界的に株価が上昇、ワクチン開発の進展や米大統領選の通貨などを背景にリスクオン相場の中、新興国へ資金が流入しブラジルレアルを押しあげた。また、小売売上高や鉱工業生産など経済指標の回復もレアルを支えた。	ブラジルレアルは下落を予想。11月15日に行われた地方選挙ではボルソナロ大統領が支持した主要都市の候補が苦戦を強いられ、政局の不透明感が強まっている。また、今後のコロナ支援などで大統領と議会の対立なども見られ、レアルは上値の重い展開となると予想。
	ドル/レアル	5.34	↗	5.15～5.80		
メキシコ	ペソ/円	5.20	↗	4.80～5.50	11月のメキシコペソは、米国の大統領選でバイデン候補の勝利がほぼ確実となるなか、メキシコの壁の国境問題やメキシコに対する対応が軟化すると期待から大幅に上昇。世界的な株高も新興国への資金流入を促し、メキシコペソを支えた。	メキシコペソは引き続き堅調に推移するとみる。足元で10月の消費者物価は9月同様、中央銀行が目標レンジをやや上回り、中銀は今後更なる緩和には踏み込みづらい状況。鉱工業生産などには挽回需要の一服がみられるが、雇用環境や個人消費などは回復が継続。メキシコペソは高水準を維持できるとみる。
	ドル/ペソ	20.04	↘	19.0～21.5		
ロシア	ルーブル/円	1.37	↘	1.33～1.42	11月のロシアルーブルは、対ドル、対円ともに上昇。世界的な株価の上昇やワクチン開発の進展などが好感され新興国通貨に資金が流入した。加えて、原油価格が大幅に上昇したこともルーブルを支えた。	12月のロシアルーブルは下落を予想。米国の大統領でバイデン候補の勝利がほぼ確実となっており、トランプ政権下に比べロシアに対し厳しい対応をとることが想定されることから米大統領の就任の1月が近づくにつれてルーブルの押し下げ圧力となろう。また、原油価格が高値圏にあることからコロナ感染拡大などに伴い原油価格下落も想定され、ルーブルへの影響も注意が必要。
	ドル/ルーブル	75.86	↗	74.0～78.0		

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

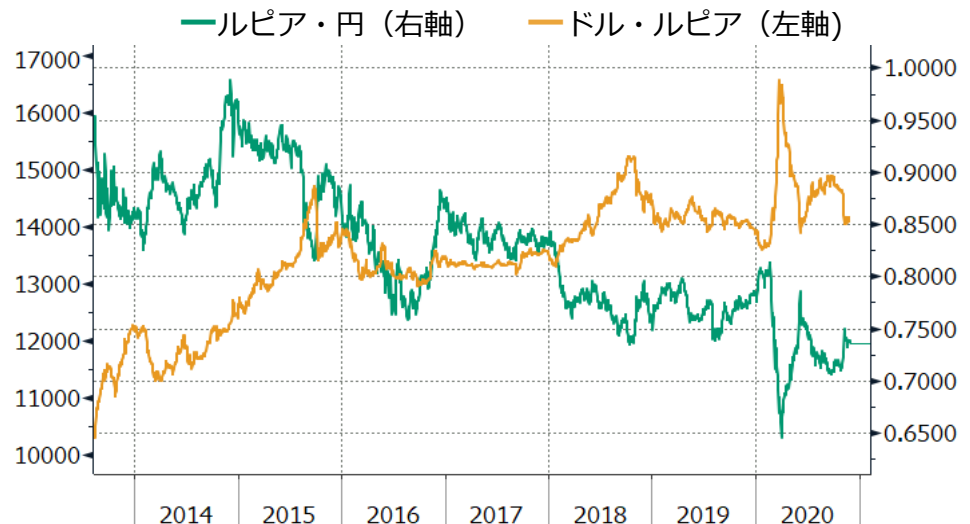
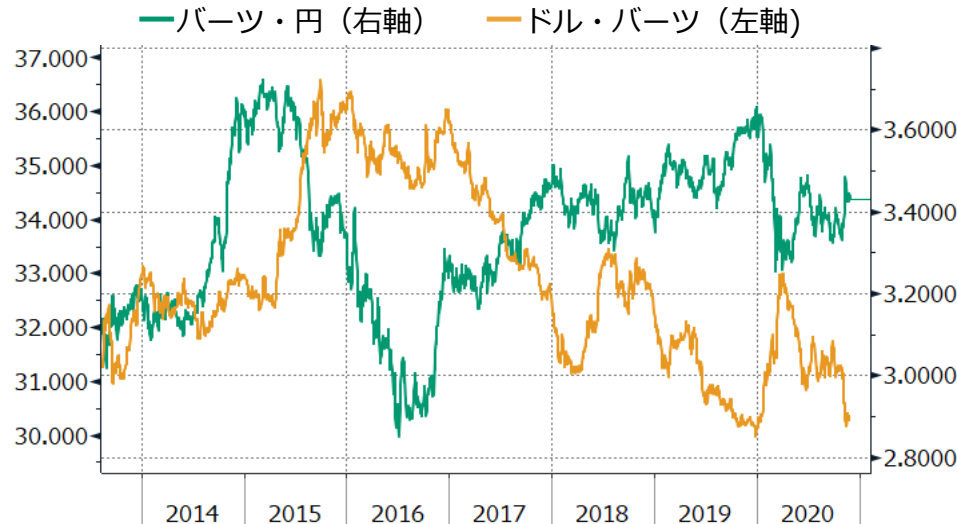
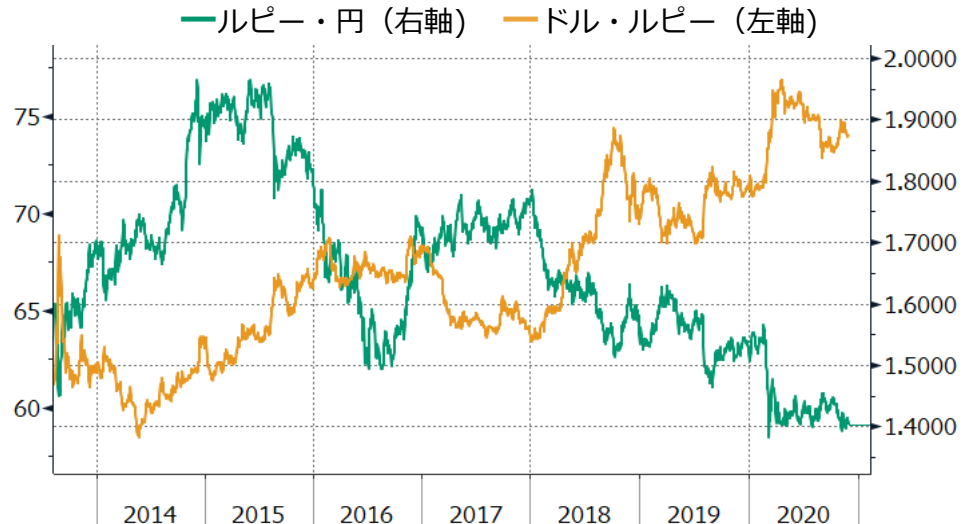
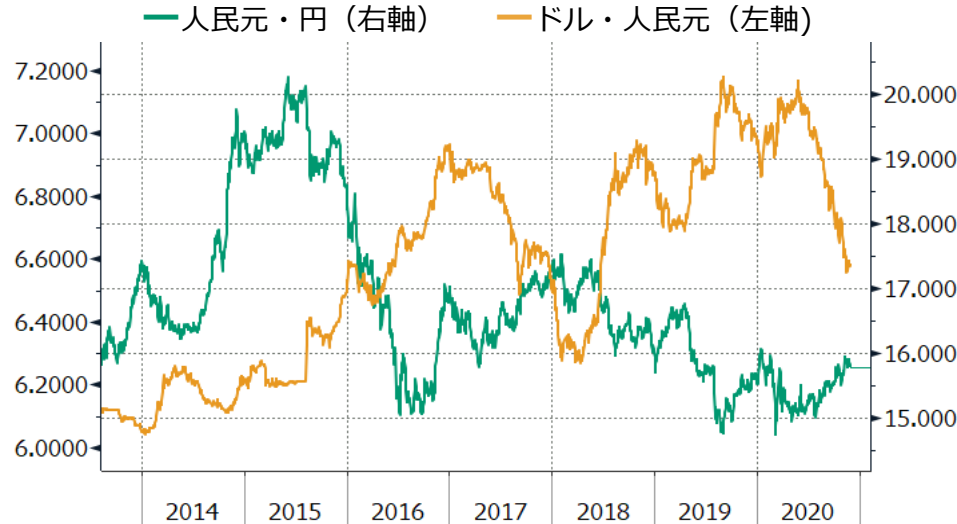
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

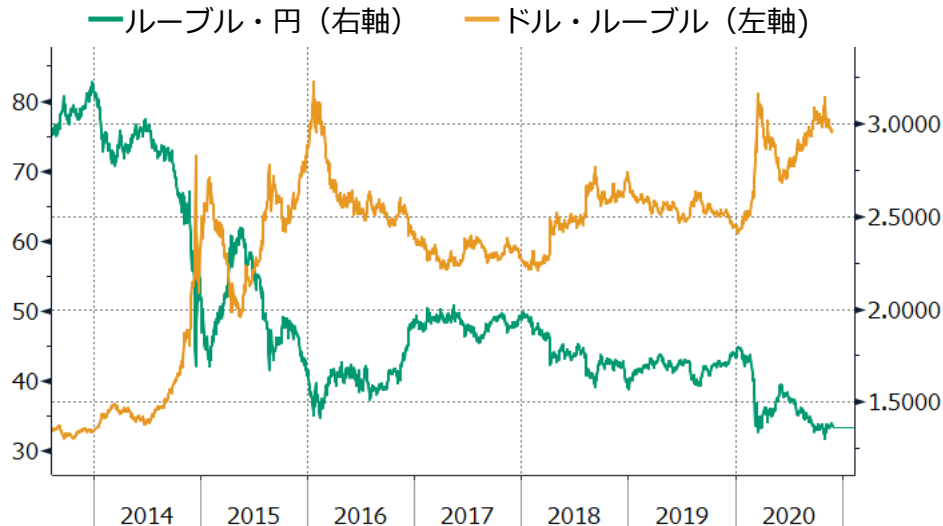
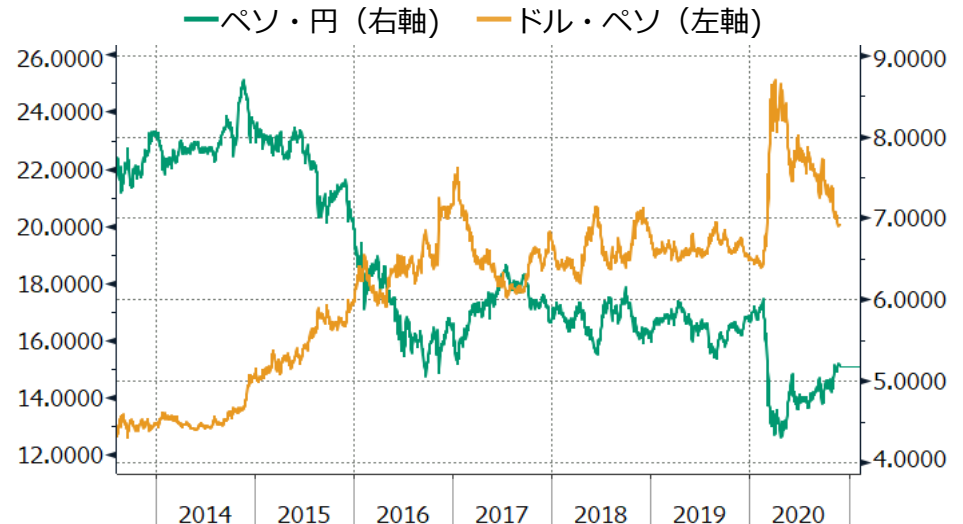
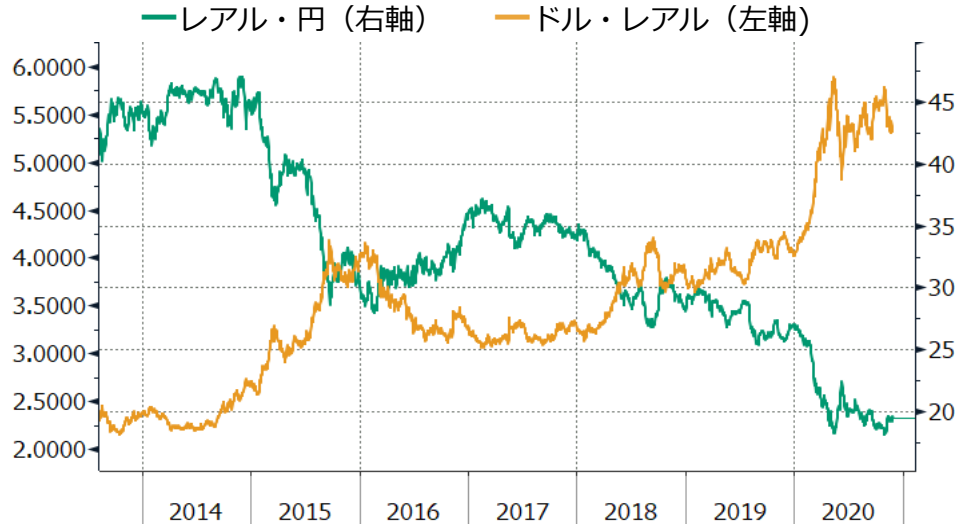
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
12/1(火)	10月雇用統計 10年債入札 7～9月期法人企業統計	10月建設支出 11月ISM製造業景況感指数	(豪) 準備銀行理事会	12/15(火)	国庫短期証券(6ヶ月) 流動性供給入札(残存期間5年 超15.5年以下)	10月対米証券投資 11月鉱工業生産 11月輸入物価指数 12月NY連銀製造業景況指数 FOMC(～16日)	(中) 11月固定資産投資 (中) 11月鉱工業生産 (中) 11月小売売上高
12/2(水)	11月マネタリーベース 11月消費動向調査	11月ADP民間雇用調査		12/16(水)	11月貿易統計 国庫短期証券(1年)	10月企業在庫 11月小売売上高	
12/3(木)	30年債入札		(EU) 10月小売売上高	12/17(木)	国庫短期証券(3ヶ月) 日銀金融政策決定会合(～18 日)	11月住宅着工 12月フィラデルフィア連銀製 造業景況指数	(英) BOE金融政策委員会
12/4(金)	国庫短期証券(3ヶ月)	10月貿易収支 11月雇用統計		12/18(金)	11月CPI 黒田日銀総裁定例会見	11月景気先行指数	(独) 12月IFO景況指数
12/6(日)			(中) 11月貿易統計	12/21(月)	資金循環統計 流動性供給入札(残存期間15.5 年超39年未満)	11月シカゴ連銀全米活動指数 11月中古住宅販売件数 12月リッチモンド連銀製造業 景況指数 7-9月期GDP確報値	
12/7(月)	10月景気動向指数	10月消費者信用残高		12/22(火)			
12/8(火)	10月国際収支 10月毎月勤労統計 11月景気ウォッチャー調査 11月貸出・預金動向 5年債入札 7-9月期GDP2次速報値		(独) 12月ZEW景気期待指数	12/23(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (10/28～29開催分)	11月個人所得・消費支出 11月新築住宅販売	
12/9(水)	10月機械受注 11月マネーストック 国庫短期証券(6ヶ月)		(中) 11月CPI	12/24(木)	2年債入札		
12/10(木)	20年債入札	11月CPI 11月財政収支	(EU) ECB定例理事会	12/25(金)	11月雇用統計 11月住宅着工件数	(クリスマス)	
12/11(金)	国庫短期証券(3ヶ月)			12/28(月)	11月鉱工業生産		
12/14(月)	10-12月期日銀短観 10月稼働率 10月第3次産業活動指数		(EU) 10月鉱工業生産	12/29(火)		10月S&P700/ダウ工業株 価値指数	
				12/30(水)	◎大納会	11月中古住宅販売成約指数	
				12/31(木)	(大晦日)		(中) 12月PMI製造業

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【10/30 ~ 11/5】

◎ 新5カ年計画内需に注力

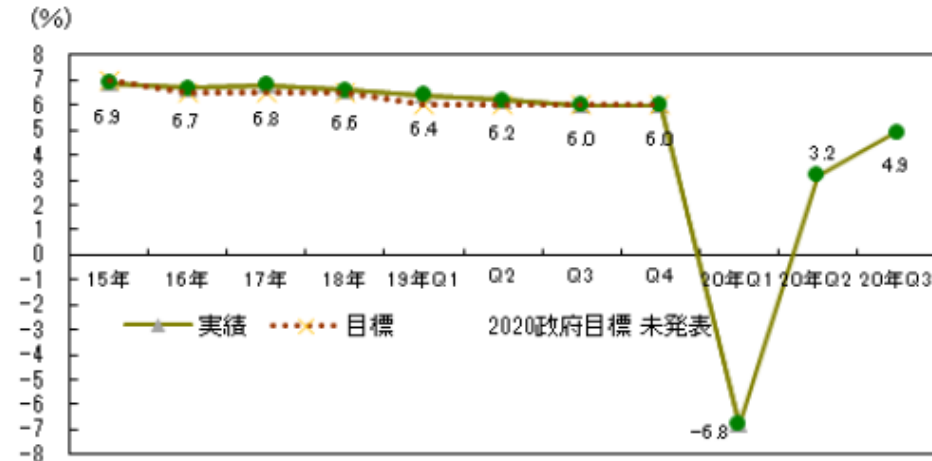
中国共産党の第19期「五中全会」において、国民経済の中期目標を定める第14次5カ年計画（2021-2025）と、2035年までの長期目標の基本方針が採択された。新5カ年計画では、「ダブル循環（国内循環と国際循環）」が相互に促進しあう新たな発展方式を構築していく方針を示した。その中でも特に、国内循環の推進として内需主導の経済構造強化に注力していく姿勢を示した。なお、35年までの長期目標では、「経済、科学技術、総合国力の大幅な向上」を強調した。

【11/6 ~ 12】

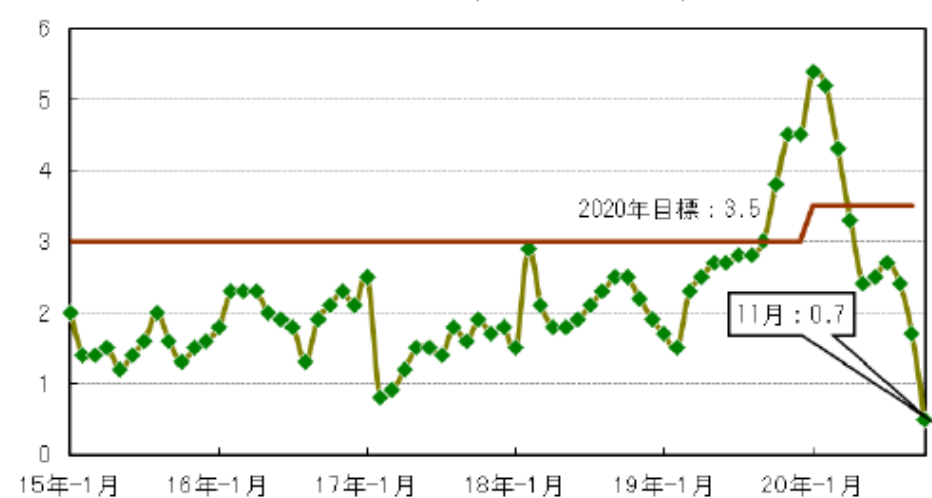
◎ 10月のCPI 0.5%上昇

中国国家統計局の発表によると、10月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比0.5%上昇した。上昇率が1%台を下回るのは2017年3月以上初めて。同局は上昇率の鈍化について、19カ月連続で上昇した豚肉価格が下落に転じたことが主因だと説明している。また、財信国際経済研究院の担当者は今後数カ月の動向について、経済の安定に伴うサービス業の価格上昇が、豚肉価格の下落分をある程度補填する為、CPIはマイナスになることはなく、0~1%の範囲で推移する可能性が高いとの見解を示している。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【11/13 ~ 19】

◎新5カ年計画成長率5%前後が妥当

中国国務院（中央政府）が17日に開いた政策説明会で、来年から始まる第14次5カ年計画（2021～2025）のGDP成長率目標について、「年間平均5%前後とするのが妥当」と経済政策の専門家が説明した。また、「（従来通り）引き続き成長率目標を設定していい」との意見も表明。5%前後の目標を設定することで、余裕を持ちながら経済政策に取り組む事ができるとしている。先日発表された同計画の基本方針では、具体的な数値目標は設定しておらず、「質の高い発展」を重視する方針としていた。なお、今年が最終年度となる第13次5カ年計画の同目標値は6.5%だった。

【11/20 ~ 26】

◎自動車購入を促進制限緩和と補助金支給

中国国務院（中央政府）は常務会議において、中国経済の回復促進を目的として、市場規模の大きい自動車産業の支援策を強化することを決定した。従来より北京、上海、広州など中国の一部都市では交通渋滞や大気汚染への対策として、ナンバープレートの発給枚数を制限している。今回、関連する地方政府にナンバープレート発給枚数の増加や制限措置のあり方自体を見直しするように求めている。同時に農村地域において3.5トン以下のトラック、1600CC以下の乗用車を購入する際に補助金を支給する。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2019/12	2020/1	2020/2	2020/3	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10
実質GDP成長率	%	6.0	-	-	-6.8	-	-	3.2	-	-	4.9	-
消費者物価上昇率	%	4.5	5.4	5.2	4.3	3.3	2.4	2.5	2.7	2.4	1.7	0.5
失業率	%	3.6	-	-	3.7	-	-	3.8	-	-	-	-
輸出額	10億ドル	238.6	-	-	185.1	200.1	207.1	213.6	237.6	235.3	239.8	237.2
輸入額	10億ドル	191.4	-	-	165.1	154.9	144.1	167.2	175.3	176.3	202.8	178.7
経常収支	100万ドル	141,336	-	-	-33,696	-	-	76,472	-	-	170,672	-
外貨準備高	10億ドル	3,107.9	3,115.5	3,106.7	3,060.6	3,091.5	3,101.7	3,112.3	3,154.4	3,164.6	3,142.6	3,128.0
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.01	6.92	7.00	7.02	7.07	7.11	7.08	7.01	6.93	6.81	6.70

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○独身人口2.4億

中国では毎年の11月11日、最大なEC販促セール「双11」が行われました。11日の午前零時で3,723億元（約5兆9,300億円）の取引額を達成した企業もあり、過去最高を更新したと発表しました。

「1」はシングルを表す数字なので、1が4つ並ぶ11月11日は最初、「独身者の日」という意味合いで生まれたのですが、2009年から独身消費者を対象としたセールを始めて以降は、「独身者の日」の感覚が一気に薄くなり、現在はすっかりECイベントとしての「双11」という認識に転じたとも言えるでしょう。

中国民政部のデータ（2018年時点）によると、全国の独身者人口（成年者）は2.4億人にも達し、うち7,700万人が一人暮らしであることが分かりました。また、一人暮らしの人数は2021年までに、9,200万人以上まで増えると予測されています。なお、2019年度の統計データによると、全国範囲での結婚件数は947.1万件で、離婚件数は415.4万件となりました。独身者が、着実に増えていることは少し意外だと感じています。

今、ちょうど10年に一度の国勢調査が行われておりますが、人口構造にどのような変化があったのか今回の調査結果は大変興味深いです。

○上海 PCR検査を受ける人数が倍増

上海では今月8日、上海浦東国際空港で荷物搬送の仕事に従事していた男性が新型コロナウイルスに感染したと報道されました。上海では国内感染は6月30日以降ゼロの状態が続いてきましたが、久しぶりの感染者です。

その後すぐに、感染者の濃厚接触者全員がPCR検査を受け、その後も新規感染者は出ていません。それにもかかわらず、上海以外の多くの地域では上海から入ってくる人に対して、目的を問わず検査の陰性診断証明書を求めるようになったため、出張する前に検査を受ける人が最近明らかに増えていると上海のローカルメディアが報道しました。

現時点、上海ではPCR検査を行うことが可能な医療機関が125箇所あり、検査能力は62.1万件/日となっています。人数が一時的に急増しても対応できなくなる可能性は低いでしょう。それに、検査結果の報告所要時間も6時間程度に短縮されており、大体検査を受けた翌日に結果が分かるようになっているので、コロナ感染拡大初期に比べ、だいぶ便利になってきました。費用（自己負担）は120元/件（約1,900円）で、有効期間は7日間となります。

また、国家資格試験を受験する際にも、7日間以内のPCRの陰性検査結果の提出が求められるようになっています。場合によって、受験日の14日間前から、試験管理部門のホームページに登録して健康状況（発熱はないか、咳など呼吸器症状はないか）について報告することが義務づけられるなど、厳しすぎるくらいの管理が行われているようです。いずれにせよ、新型コロナが一日も早く終息するよう祈ります。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年12月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2020年9月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は前月から改善した。新型コロナウイルス感染拡大による打撃を受けた複数の分野が持ち直したほか、連休に消費が伸びたこと等が背景にある。個人消費指数は前年同月比横ばい。前月までは6カ月連続マイナス成長だった。工業生産指数は前年同月比2.8%減、民間投資指数は同3.7%減とそれぞれ低下したが、落ち込み幅が縮小した。公共投資が引き続き拡大した。外国人観光客数は入国制限により、6カ月連続でゼロとなった。

◆タイ商務省によると、2020年9月の輸出額は前年同月比3.9%減の196億2,132万米ドル。マイナス成長は5カ月連続だったが、落ち込み幅の縮小が続いている。依然として在宅勤務関連製品、新型コロナウイルス防止関連物資等は順調に伸びている。農産物・加工品の輸出は前年同月比3.1%増、工業製品は同3.9%減。電子製品・同部品、電気製品・同部品、ゴム製品は増加したが、自動車・同部品、ラジオ・テレビ受像機、石油関連製品等は

減少した。市場別では、米国、中国、オーストラリア向けの輸出額がプラス成長。日本、欧州連合（EU）、英国向けはいずれも減少した。輸入額は同9.1%減の173億9,120万米ドル。この結果、貿易収支は22億3,012万米ドルの黒字となった。今年1～9月の輸出額は前年同期比7.3%減の1,729億9,610万米ドルだった。9月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル＝31.37パーツで、前月の31.21パーツ比パーツ安となった。

◆タイ商務省が発表した10月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比0.50%下落した。前年同月を下回ったのは8カ月連続。燃料石油価格の下落が背景にある。食品・飲料は同1.57%上昇。生鮮野菜が同13.54%と高騰した。非食品は同1.70%下落。また、今年1～10月のCPI平均値は前年同期比0.94%下落した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2019/12	2020/1	2020/2	2020/3	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10
実質GDP成長率	%	1.5	-	-	-2.0	-	-	-12.1	-	-	-6.4	-
消費者物価上昇率	%	0.9	1.1	0.7	-0.5	-3.0	-3.4	-1.6	-1.0	-0.5	-0.7	-0.5
失業率	%	1.0	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	2.2	1.9	1.9	-
輸出額	100万ドル	19,179	19,626	20,642	22,405	18,948	16,278	16,444	18,819	20,212	19,621	-
輸入額	100万ドル	18,451	21,181	16,744	20,813	16,486	13,584	14,834	15,476	15,863	17,391	-
経常収支	100万ドル	4,204	3,092	5,178	623		726	-51	1,736	3,122	1,314	-
外貨準備高	10億ドル	224.3	230.3	229.5	226.5	235.7	237.3	241.6	250.4	253.5	251.4	248.5
主要政策金利	%	1.25	1.25	1.00	0.75	0.75	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	30.2	30.5	31.3	32.1	32.6	32.0	31.2	31.4	31.2	31.4	31.3

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2020年12月号)

タイにおける自動車産業の動向

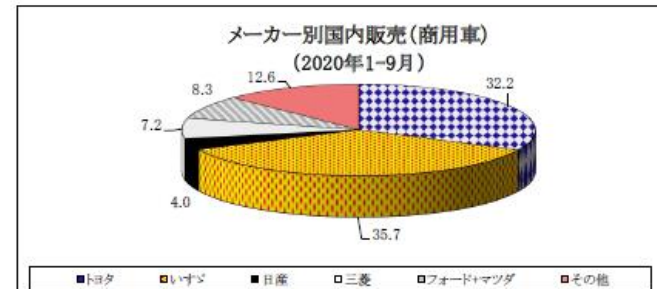
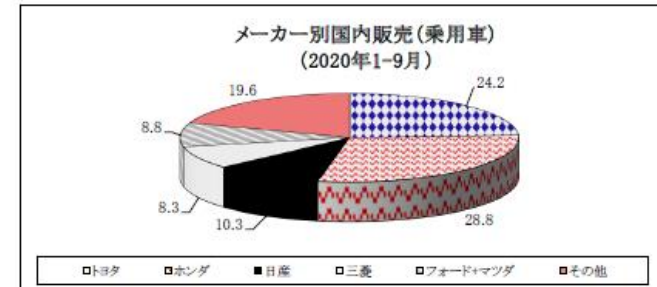
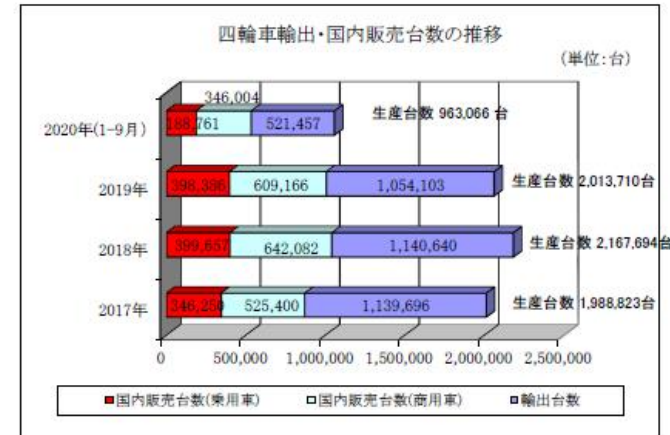
りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟 (FTI)

			2017年	2018年	2019年	2020年 (1-9月)	前年同期比 (%)	9月
【台数】 (台)								
四輪	生産台数	乗用車	826,787	884,609	804,340	363,809	57.8	55,669
		商用車	1,162,036	1,283,085	1,209,370	599,257	63.6	94,676
		合計	1,988,823	2,167,694	2,013,710	963,066	61.2	150,345
	国内販売台数	乗用車	346,250	399,657	398,386	188,761	61.8	29,245
		商用車	525,400	642,082	609,166	346,004	75.8	48,698
		合計	871,650	1,041,739	1,007,552	534,765	70.2	77,943
輸出台数		1,139,696	1,140,640	1,054,103	521,457	63.5	63,941	
二輪	生産台数	2,055,193	2,063,076	1,948,480	1,114,015	78.0	174,645	
	国内販売台数	1,810,771	1,788,323	1,718,587	1,145,867	86.3	133,441	
	輸出台数	849,081	886,275	948,839	512,591	76.1	57,454	
【完成車輸出金額】 (百万バート)								
四輪			603,038	594,810	545,968	288,219	68.1	36,762
二輪			54,828	61,654	69,933	42,339	84.3	4,730

出所:トヨタ自動車

		2017年	シェア (%)	2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年 (1-9月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	9月
トヨタ	乗用車	96,606	27.9	112,394	28.1	117,708	29.5	45,676	51.5	24.2	5,430
	商用車	143,531	27.3	202,719	31.6	214,672	35.2	111,455	69.5	32.2	18,327
	合計	240,137	27.5	315,113	30.2	332,380	33.0	157,131	63.1	29.4	23,757
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	160,550	30.6	177,864	27.7	168,215	27.6	123,526	98.1	35.7	15,438
	合計	160,550	18.4	177,864	17.1	168,215	16.7	123,526	98.1	23.1	15,438
ホンダ	乗用車	95,078	27.5	95,793	24.0	96,154	24.1	54,432	72.8	28.8	7,598
	商用車	32,690	6.2	32,497	5.1	29,679	4.9	10,615	46.3	3.1	1,479
	合計	127,768	14.7	128,290	12.3	125,833	12.5	65,047	66.6	12.2	9,077
日産	乗用車	35,283	10.2	43,991	11.0	35,809	9.0	19,349	69.4	10.3	2,240
	商用車	24,426	4.6	28,403	4.4	28,605	4.7	13,698	62.7	4.0	1,189
	合計	59,709	6.9	72,394	6.9	64,414	6.4	33,047	66.5	6.2	3,429
三菱	乗用車	22,833	6.6	31,594	7.9	38,879	9.8	15,693	52.0	8.3	1,737
	商用車	46,904	8.9	52,966	8.2	49,365	8.1	24,829	66.6	7.2	3,124
	合計	69,737	8.0	84,560	8.1	88,244	8.8	40,522	60.1	7.6	4,861
その他	乗用車	96,450	27.8	115,885	29.0	109,836	27.6	53,611	63.8	28.4	12,240
	商用車	117,299	22.4	147,633	23.0	118,630	19.5	61,881	70.4	17.8	9,141
	合計	213,749	24.5	263,518	25.4	228,466	22.7	115,492	67.2	21.5	21,381
合計	乗用車	346,250	100.0	399,657	100.0	398,386	100.0	188,761	61.8	100.0	29,245
	商用車	525,400	100.0	642,082	100.0	609,166	100.0	346,004	75.8	100.0	48,698
	合計	871,650	100.0	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	534,765	70.2	100.0	77,943



◎ 注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。